

生誕百二十年記念

漂泊する心 竹久夢二 追想展



《山の茶亭》 一九二二(大正十一)年



《かげやとろうくじん》 一九二二(大正元年) 竹久夢二美術館蔵



《白夜》 一九二二(大正十一年)頃 夢二郷土美術館蔵

2003年9月6日[土] → 10月13日[月]祝

開館時間／午前9時 - 午後5時(入館は、午後4時30分まで)

休館日／月曜日(祝日の場合は、開館)と、9月16日(火曜日)

[9月15日(月・祝)と10月13日(月・祝/最終日)は開館、

9月15日(月・祝)の翌日の9月16日(火)は休館]

観覧料／大人一般：800円、大学・高校生：500円、中学・小学生：300円

[団体(20名以上)は、各100円引]

[前売は、各200円引/前売券販売所は、中国新聞販売所 および 大人一般のみJR西日本(岡山・広島エリア)の主な駅のみどりの窓口で]

尾道市立美術館

ONOMICHI CITY MUSEUM OF ART 〒722-0032 尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内
Tel.0848-23-2281 Fax.0848-20-1682

主催／尾道市立美術館、中国新聞備後本社
後援／広島県教育委員会
特別協力／JR西日本



日本各地を巡り、ヨーロッパやアメリカに渡つて、旅をしては恋をした、漂泊の画家、竹久夢二。夢二といえば、うりざね顔や憂い顔の美人画が想起されますが、そこには淡い旅情やほのかな恋心とともに、大正時代の「浪漫」が香り高く伝えられています。

夢二は、明治十七年九月十六日、岡山に生まれ、遠くみちのくまで足跡をしるして、数々の名品を残しました。今回、生誕百二十年を記念して、全国のコレクションから、みずみずしい水彩画や、しっとりとした美人画、また屏風や、楽譜の表紙、自らの詩句を添えた作品など、版画や複製ではない本画を中心に、さまざまな作品を一堂に会し、かつてないスケールで夢二のしなやかな人間性に迫ります。

本展では、水彩画の名品《長崎十二景》の全作品を展覧するとともに、これまであまり知られていなかった、みちのくの個人コレクションから初公開される名品の数々や、尾道会場だけに出品される屏風《秋のいこい》、また数少ない油彩画のなかでも初期の《初恋》や晩年の《黄八丈》のほか、セノオ楽譜の原画二十四点など、百六十二件にのぼる作品が、尾道市立美術館に集います。深まりゆく秋の千光寺路を散策して、旅情あふれる夢二の作品を、ぜひ尾道市立美術館でご覧ください。



⑧



⑥



④

- ①《画房小景》 大正 中期 夢二郷土美術館 蔵
- ②《セノオ楽譜 深い河》 1923(大正12)年 夢二郷土美術館 蔵
- ③《大徳寺》 1929(昭和4)年 夢二郷土美術館 蔵
- ④《長崎十二景 眼鏡橋》 1920(大正9)年 河村コレクション 蔵
- ⑤《紙橋》 大正 中期 夢二郷土美術館 蔵
- ⑥《光れる水》 1910(明治43)年 夢二郷土美術館 蔵
- ⑦《秋のいこい》 1920(大正9)年 夢二郷土美術館 蔵
- ⑧《夢二落款印章》(夢二 并 朱文円印)
- ⑨《日本男児》 大正 前期 夢二郷土美術館 蔵
- ⑩《早春》 大正 後期 夢二郷土美術館 蔵
- ⑪《わたかねなんだか》 大正 中期 夢二郷土美術館 蔵



⑨



⑦



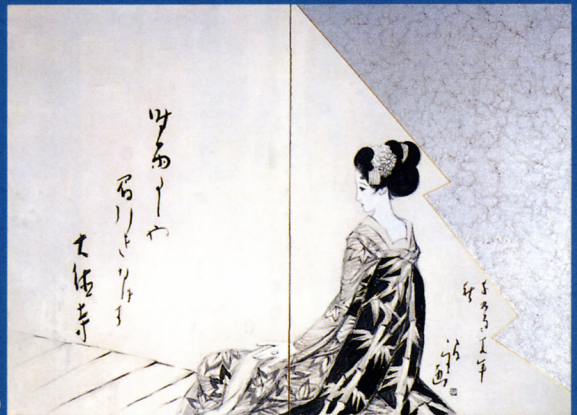
⑤



②



⑩



③

■ 特別記念講演会(会場：尾道市立美術館2階ホール)

会場●尾道市立美術館
日時●9月6日(土) 14:00~16:00

竹久夢二 人と作品—夢二の俳句の変遷をめぐって
講師●夢二郷土美術館 主任学芸員 小川 晶子 さん
※ 当日の入館者を対象とします。申込みは不要です。

■ 次回展覧会予告

第55回 広島県美術展
2003年10月22日(水)~10月26日(日)

ご利用案内

- JR西日本・山陽本線をご利用の場合：「尾道駅」から東行きの市バスで「長江口」下車、ロープウェイで「千光寺公園」へ。
(市バスの「千光寺公園」直行便は、便数が少ないのでご注意ください)
- お車をご利用の場合：「千光寺ドライブウェイ」経由で「かおり橋駐車場」へ。
(駐車券をご提示いただけましたら、当日券をお求めのかた1名様にかぎり、200円割引いたします)
- タクシーをご利用の場合：「尾道駅」または「新尾道駅」から1,200円程度です。

尾道市立美術館

〒722-0032 尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内
Tel.0848-23-2281 Fax.0848-20-1682

